平成28年度 第１回
総合教育会議資料

（仮称）鹿屋女子高等学校
みらい創造プラン
～活性化基本方針（案）～

鹿屋市教育委員会

◆ 目次

はじめに …… 1

第1章　基本構想

1　基本理念 …… 2

2　目指す学校像と育成人材像 …… 2

第2章　基本目標と活性化に向けた取組

1　5つの基本目標 …… 3

2　活性化に向けた取組

基本目標1　多様な進路の実現 …… 5

基本目標2　特色ある活動の実践 …… 6

基本目標3　地域連携と貢献 …… 7

基本目標4　キャンパスライフの充実 …… 8

基本目標5　親しまれる学校づくり …… 9

第3章　新たなカリキュラム構成

1　カリキュラムに関する基本的な考え方 …… 10

2　新たなカリキュラム構成 …… 11

第4章　新校舎の概要と主な機能 …… 13

第5章　実行スケジュール …… 15

（資料編）

参考1　本市を取り巻く高校教育の状況 …… 17

参考2　鹿屋女子高等学校の概況 …… 19

参考3　鹿屋女子高等学校活性化検討委員会における意見 …… 21

参考4　アンケート調査結果・意見聞き取りの結果 …… 23

はじめに

鹿屋女子高等学校は、昭和33年の創立以来、多くの人材の育成、輩出し、本地域の成長と発展の中で、大きな役割を果たしてきており、間もなく創立60周年を迎えようとしています。

その間、時代は、グローバル化や知識基盤社会へと大きく変遷する一方、社会全体の人口減少や少子高齢化等に伴い、大幅な労働人口の減少や、福祉、子育て等をはじめとする、様々な課題への対応が、喫緊で根本的な問題として顕在化しています。

これらの問題に的確に対応するためには、女性の更なる活躍が大きく求められており、大隅地域の中核都市である鹿屋市が、これからの社会に必要とされる人材を育成するため、鹿屋女子高等学校を発展させていくことは、本市の重要な使命の一つとなっています。

鹿屋女子高等学校が、今後も引き続き、伝統や校風を大切にしつつ、時代の要請に対応した教育を推進し、自己の能力を発揮し社会に貢献できる人材を育成することは、一人一人の生徒たちの自己実現を図るとともに、鹿屋市、大隅地域のみならず、社会全体の発展に大きく寄与するものです。

このようなことから、市立女子校の特徴をいかしながら、魅力ある学校として更なる飛躍と発展に取り組むため、今回「鹿屋女子高等学校みらい創造プラン～活性化基本方針」を策定することとしました。

方針の策定に当たっては、在校生や中学生、保護者をはじめ、地元企業や地域団体等との意見交換やアンケートを実施するとともに、有識者等で構成する「鹿屋女子高等学校活性化検討委員会」において集中的に議論を重ね、多種多様な視点から、ご意見をいただくことができました。

今後については、本方針に基づき、引き続き、地域や関係機関の皆様のお力添えをいただきながら各取組の実現に向け邁進してまいりますので、今後とも御支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

鹿屋市教育委員会

第１章　基本構想

１　基本理念

しなやかで豊かな感性を持ち
社会に貢献できる人材の育成

２　目指す学校像と育成人材像

≪目指す学校像≫

（１）　多様な学習機会を設けることで、一人一人の進路目標に対応でき、生徒の可能性を伸張する学校

（２）　能動的な学びを通して、生きて働く知識や思考力を習得させ、生徒の主体性や創造力を養成する学校

（３）　授業や学校行事などの様々な教育活動を通して、個々の感性や創造力、協働の精神等を高めるキャリア教育を推進する学校

（４）　地域との連携により、積極的に地域人材を活用した体験的・実際的な学習を推進し、生徒の実践力を育成する学校

≪育成人材像≫

（１）　個性と才能を開花させ、積極的に自己の向上に努める生徒

（２）　品性と教養、奉仕する心を備え、心豊かで創造性に富む生徒

（３）　必要な基礎的、汎用的能力を身に付け、社会に貢献する生徒

（４）　郷土への誇りと愛着を持つとともに、グローバルな視点に立って行動できる生徒

第２章　基本目標と活性化に向けた取組

１　５つの基本目標

基本理念

しなやか
感性を
社会に貢
人材の

基本目標
5
親しまれる学校づくり

効果的なプロモーション
と支援体制の強化

1 様々な方法を用いた広報活動
の強化、充実
2 地域で応援する組織づくり
3 小中学校との連携強化

基本目標
4
キャンパスライフの充実

個性を発揮できる
環境の整備

1 機能的で魅力ある新校舎の建設
2 部活動の充実と強化に向けた支援
3 通学環境の改善や県内外からの
受入れ支援

基本

多様な進

様々な可
できる仕

本目標
1
進路の実現

能性に挑戦
組みづくり

1 各学科における学習の深化
2 可能性を広げる総合選択制の導入
3 様々なライフスタイルを見据えた
キャリア教育の実施

で豊かな
を持ち
献できる
の育成

基本目標
2
特色ある活動の実践

時代のニーズに対応する
実践力の育成

1 時代に対応したＩＣＴ教育の推進
2 実用的、実践的な英会話教育の推進
3 日本文化と地域の理解を基礎とする
グローバル教育の推進

基本目標
3
地域連携と貢献

地域を愛し、地域に
貢献する人材の育成

1 地域との連携や交流
2 ボランティア等による地域貢献
3 地域に開かれた民間機能を持つ
施設整備

2　活性化に向けた取組

基本目標1 多様な進路の実現　～様々な可能性に挑戦できる仕組みづくり～

取組1 各学科における学習の深化

様々な手段や機会によって、各学科における学びをより深化させ、充実した教科教育に取り組みます。（学科名称の見直しも検討します。）

普通系学科
- 習熟度別授業や学び直しトレーニング
- 進路希望別のカリキュラム

家庭系学科
- 学習成果の積極的な発表
- 地域人講師による実践学習

商業系学科
- 資格取得と実学の両立
- 地域における実際的学習

参照：P10～12［第3章　新たなカリキュラム構成］

取組2 可能性を広げる総合選択制の導入

生徒の多様な進路希望に対応した学習が可能になる総合選択制を導入します。これにより上級学校への進学や就職につながる、様々なスキルを向上させます。

- ①科の枠を越えた新たな授業の設定
- ②コミュニケーションスキルの向上
- ③進学先に対応した受験対策
- ④就職に役立つ資格取得

参照：P10～12［第3章　新たなカリキュラム構成］

取組3 様々なライフスタイルを見据えたキャリア教育の実施

- ①地元企業による講演
- ②実体験型の授業の実施
- ③ビジネスマナーの学習

職業観はもとより、女性のライフサイクルについて考え、自分らしい生き方を選ぶ力を身に付けます。学校の方針の一つとして、様々な科目においてキャリア教育を推進していきます。

「キャリア教育」
一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、自分が自分として生きるために、「学び続けたい」、「働き続けたい」と願い、それを実現させていく姿勢を養成します。

基本目標２　特色ある活動の実践　～時代のニーズに対応する実践力の育成～

取組1　時代に対応したＩＣＴ教育の推進

①プレゼンテーション能力の向上

②コンピュータアプリの開発

③放課後学習等の充実

④地域課題の研究

グローバル社会において欠かせないＩＣＴ教育を推進し、情報機器を正しく活用し、これからの社会で活躍できる人材を育成します。

取組2　実用的、実践的な英会話教育の推進

①ビジネスに通用する実践英語の学習

②外国の方との積極的な交流

③イングリッシュタイムの導入

④カビックセンター等との連携

様々な場面において必要となる、海外の方をおもてなしできる“生きた英語力”を身に付けます。

「カビックセンター」

（正式名称：鹿児島県アジア太平洋農村研修センター）

国際交流イベントの開催や、楽しく学べる国際理解プログラム、海外ボランティア経験者の体験談など、世界に触れる様々な機会を提供しています。

取組3　日本文化と地域の理解を基にしたグローバル教育の推進

①作法教育の充実

②日本文化（お茶、お花、着付け等）の実践学習

③「かのや学」を通じた地域理解

日本文化を実践的に理解するとともに、郷土である鹿屋や大隅についての理解を深めることで、自らのアイデンティティを確立し、自立した女性へと成長します。

基本目標3　地域連携と貢献　～地域を愛し、地域に貢献する人材の育成～

取組1　地域との連携や交流

①商店街等での販売実習

②他校との交流

③文化系部活動の地域での発表

④新商品の開発

様々な場面で地域の団体や人材と連携や交流を行うことで、地域についての理解を深め“郷土愛”を醸成します。

取組2　ボランティア等による地域貢献

①地域イベント等への参画

②自校開催イベントの充実

③「鹿屋っ子クラブ」での活動の充実

「鹿屋っ子クラブ」

鹿屋市内の中学生・高校生で組織する、ボランティア活動を中心に活動しているグループ。ボランティア活動のほか、研修活動や体験活動などを行っています。

積極的に地域に出て様々な場面で活動することや、女子高主催の「キッズチャレンジフェスタ」や「キッズビジネスタウン」など自らの学習の還元を通して、地域に役立つ意義を学び、自己肯定感を高めます。

「キッズチャレンジフェスタ」

鹿屋女子高生が、学科の学びや部活動等を基にした様々な体験活動を小学生に提供するイベント。

「キッズビジネスタウン」

鹿屋女子高内に会社や銀行、官公庁などを模擬的に設置して、小学生が職業体験や流通体験ができるイベント。

取組3　地域に開かれた民間機能を持つ施設整備

①飲食や販売が可能な施設

②講堂やホールなど交流が可能な施設

③スポーツジムや研修室など体験が可能な施設

（※想定される施設・機能の一例です。）

民間機能を持つ施設を併設することで、民間の持つ様々なノウハウや技術を学ぶとともに、地域の人々が利用できる施設になることで、交流や体験が活発に行われるようになります。

基本目標4　キャンパスライフの充実　～個性を発揮できる環境の整備～

取組1　機能的で魅力ある新校舎の建設

- ①ＩＣＴ環境の整備
- ②学習スペースの充実
- ③女性目線の快適空間
- ④交流空間の設置（カフェリア等）

日々通学するのが楽しくなる、快適で居心地の良い学習環境や設備、様々な実習や体験活動等に利用できる空間づくりなどを取り入れた、機能的で魅力ある新校舎を建設します。

取組2　部活動の充実と強化に向けた支援

地域の様々な団体、指導者と連携して部活動の充実と強化を図ります。

- ①地域コーチの活用
- ②中学校の部活動との連携
- ③活動しやすい環境づくり
- ④大学生との部活動を通じた交流

取組3　通学環境の改善や県内外からの受入れ支援

- ①バス路線や時刻の見直しの要請
- ②通学路の安全確保
- ③下宿・シェアハウスの確保、寮の整備

大隅地域内からの通学環境を改善するとともに、県内外の入学希望者の受入れ体制を整えることで、入学者の増加につなげます。

基本目標5　親しまれる学校づくり ～効果的なプロモーションと支援体制の強化～

取組1

様々な方法を用いた広報活動の強化、充実

①SNSの活用

②同窓会と連携したPR

③パンフレットやホームページのリニューアル

④主催イベントの充実

様々な方法を用いて、鹿屋女子高校の教育内容や地域連携活動、部活動の状況などの魅力を積極的に発信していきます。

取組2

地域が支援する体制づくり

①同窓会やPTAによる支援体制の充実

②地域人材バンクによる支援

③（仮称）女子高応援団など応援体制の組織化

地域人材バンクや（仮称）女子高応援団などの組織を結成し、様々な活動に対する支援を強化していきます。

取組3

小中学校との連携強化

小中学校や児童生徒と関わる機会を多くつくり出すことで、鹿屋女子高校をより身近に感じて、愛着を持ってもらうよう促します。

①進路担当者への分かりやすい説明や資料の提供

②共催イベントの企画・開催

③女子高や小中学校で交流する機会の創出

第３章　新たなカリキュラム構成

１　カリキュラムに関する基本的な考え方

１　３学科を基本とする魅力ある学習

学科については、中学３年生女子や鹿屋女子高校の在校生、保護者等のアンケート調査や、卒業後の進路、設置に係る課題等、様々な観点から検討、検証を行い、子どもたちや保護者のニーズの高い「普通系」・「家庭系」・「商業系」の３つを学科として設置することにしました。

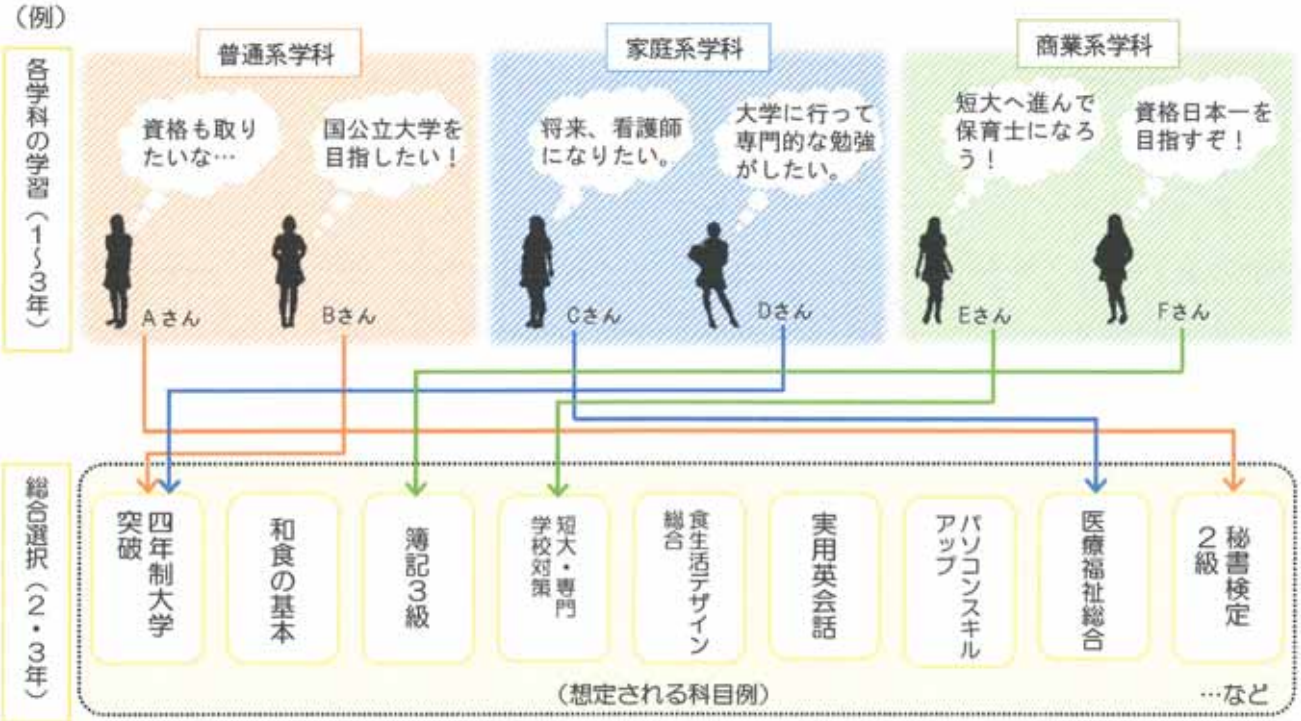
アクティブラーニングやフィールドワークなど能動的、体験的な学習方法を用いて、３学科における学習をさらに深化し、魅力あるものにします。

また、社会的ニーズの高い「看護医療系」・「保育・福祉系」や、その他「体育スポーツ系」・「芸術系」などについては、「総合選択制」の中の科目に設けることで、様々な可能性に挑戦できる魅力ある学習を実現します。

参照：P23～24［参考４アンケート調査結果・意見聞き取りの結果］

２　総合選択制による多様な進路への対応

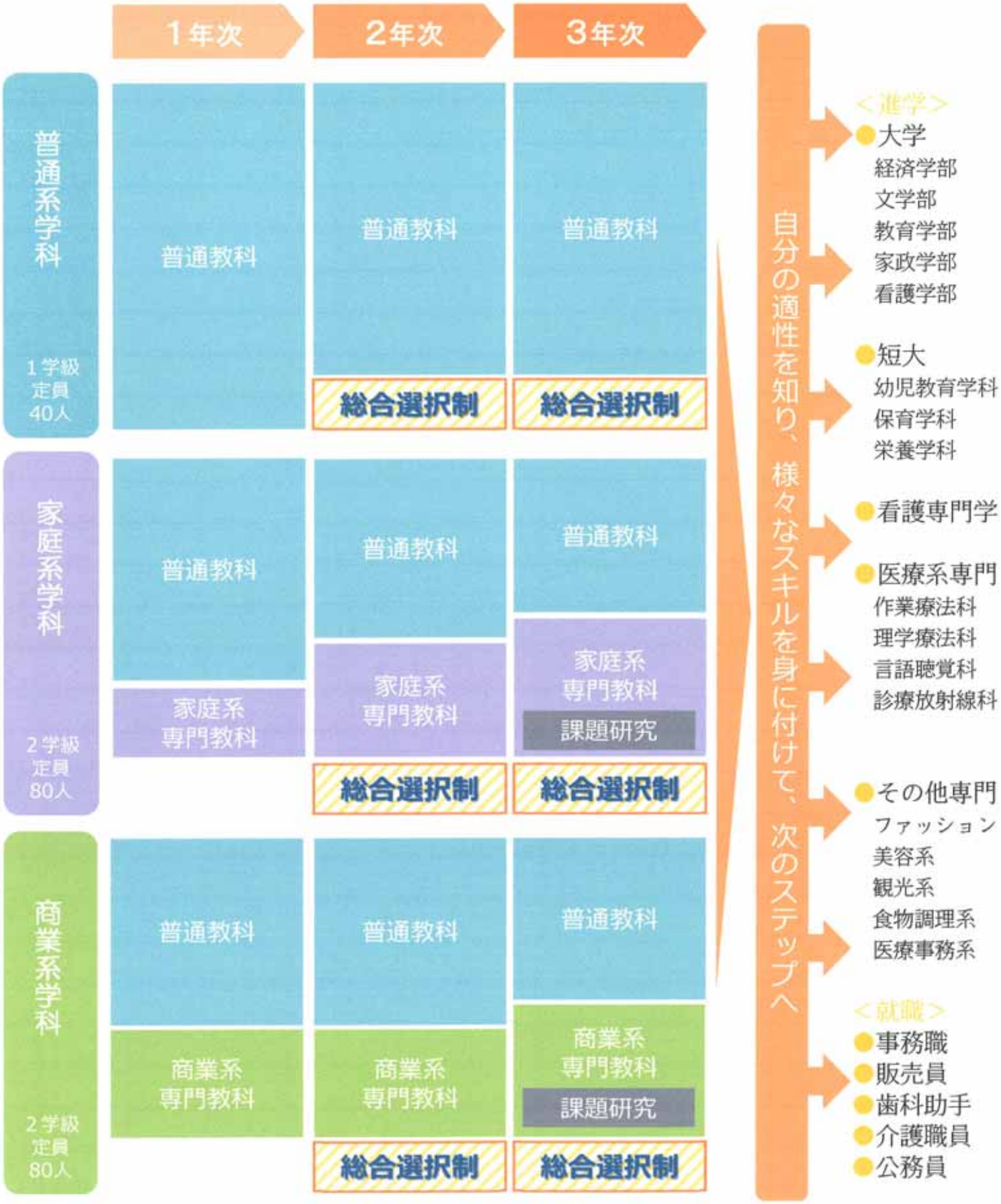
卒業後の進路として希望の多い「保育、看護、医療」等分野や、大学への進学など、多様な進路に対応した科目を、学科の枠を越えて自由に学べるようになります。



３　地域人材の活用

専門学科における「課題研究」や、今回導入を目指す「総合選択制」については、市立ならではの地域人材を様々な分野から積極的に活用し、より実践的かつ専門的な科目の充実を図ります。

2　新たなカリキュラム構成



ポイント①　それぞれの学科の学習において、ＩＣＴ教育やアクティブラーニング等の体験的、主体的な活動を行うことで、より効果的で、魅力ある学習へと深化します。

どの学科でも、幅広い進路実現が可能で、多様な夢に近づくカリキュラム

総合選択制

＜2・3年生同時限実施　各学年2単位～＞

〔科目例〕

［ 2～3年次継続履修（単年度可） ］

看護・医療
（講師：普通系学科教員、鹿屋看護専門学校教員、看師経験者等）
・看護系、医療系の進学を目指す生徒の入試対策や外部講師による実技的学習を行う。

文理探究
〔四年制大学や短大への進学対策〕
（講師：普通系学科教員、県内予備校講師等）
・主に大学への進学を目指す生徒の入試対策や外部講師による指導等を行う。

［ 単年度での選択履修 ］

保育・福祉
（講師：保育士会、社会福祉協議会等）
・保育系、福祉系の上級学校への進学を目指す生徒の入試対策や基礎的な知識、技術を身に付ける。

食物・調理
（講師：家庭系学科教員）
・日本の食文化や世界の料理、パンや菓子作りなどの基本の技術を身に付ける。

被服デザイン
（講師：家庭系学科教員）
・服飾、手芸等の実技的な学習や知的財産に関する学習、染色・カラーコーディネートなどの学習を行う。

国際交流
（講師：普通科系学科教員、カビックセンター、学校教育課、地域活力推進課）
・日常英会話や各国の歴史等についての学習、体験的交流を行う。

ｽﾎﾟｰﾂ健康・保健
（講師：体育科教員、大学等）
・心身の健康や筋力トレーニング、応急処置といった基礎的知識や技術についての学習を行う。

ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ・ﾏﾅｰ
（講師：商業系学科教員、鹿児島ホテル短期大学校等）
・ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ技術を身に付けるとともに、ﾎｽﾋﾟﾀﾘﾃｨやﾋﾞｼﾞﾈｽﾏﾅｰ等の学習を行う。

ビジネススキル（基礎）
（講師：商業系学科教員）
・商業系学科以外の生徒を対象とし、電卓やパソコン等の利用技術、基礎的な簿記の学習を行う。

ビジネススキル（発展）
（講師：商工会議所、専門学校等）
・商業系学科の生徒を対象とし、専門的に学習してきた内容の深化や、日商簿記１級等の上級資格取得を目指して学習する。

など

など

校

学校

など

学校系

など

など

ポイント②　総合選択制の導入により、学科の枠を越えて、生徒の多様な進路希望の実現に必要な学習を行うことが可能になります。

第４章　新校舎の概要と主な機能

1　生徒の自主的な活動を実現する施設設備

- 多様な学習室の設置
  （少人数指導への対応、学習スペース、多目的室）
- 学習成果等を発表する場の設置
  （ホール、展示スペース）
- 専門の学科に対応できる教室の設置
  （キッチンスタジオ、マナー演習室）
- 生活活動の拠点となる場の設置
  （寮、食堂等）

機能性

供用開始予定：H32年度
延　床　面　積：約6,000
・現校舎の１号棟、２号
・公民連携方式を用いて

安全性

4　安全でゆとりや潤いのある施設設備

- 生徒のセキュリティ確保
  （ゾーニング、警備委託等）
- バリアフリーへの対応
- 快適な施設、校庭、相談室の確保
  （ピロティや校内ランニングコース等）
- 環境との共生
  （太陽光発電、屋上庭園、省エネ設計等）

記載している機能や施設は、想定されるものの一例です。
今後様々な検証や検討の上、魅力ある新校舎整備に取り組んでいきます。

2 情報化や国際化に対応できる施設設備

- ICT教育環境の整備
  （電子黒板、タブレットの導入、自学自習や海外の学校との通信授業に活用）
- 文化的教育活動を具現化する施設
  （和室、茶室、書道室等の充実）
- 木材等を活用した、温もりや居心地の良さを感じる空間の構築

先進性

m²
東、武道場を解体します。
民間収益施設を併設します。

開放性

3 公民連携による市民との交流を促進する施設設備

- 多世代交流の機会創出
  （多目的ホール・ギャラリー・講堂など）
- 民間施設を活用した教育環境の充実
  （販売実習、子育てに関する体験学習等）
- 学校施設の有効活用
  （スポーツジム、研修室としての開放）
- 地域コミュニティへの貢献
  （にぎわいづくりや防災の拠点、共催事業の実施）

第5章　実行スケジュール（平成28年9月現在案）

	＜施設整備＞	＜カリキュラム・ICT教育＞	＜学校生活・広報等＞
H28年度	○実施方針案の公表 ○事業者説明会 ○特定事業選定の公表 ○債務負担行為の設定	○地域人材の選出 ○総合選択制カリキュラム検討 ○キャリア教育特別講座の内容検討	○下宿先・シェアハウスの確保 ○バス路線・ダイヤの見直し ○スクールバスの検討 ○（仮称）女子高応援隊LINE@スタート ○パンフレット・ホームページの見直し ○学校PRビデオの見直し ○学校主催行事の充実 ○中学校進路担当者への説明の見直し
H29年度	○民間事業者の募集 ○民間事業者参加表明 ○民間事業者の選定・公表 ○仮契約の締結 ○本契約の締結 ○基本設計承認 ○実施設計の承認	○タブレットの一部導入 ○電子黒板の導入 ○地域人材講師の一部投入 ○総合選択制カリキュラム検討	○シェアハウス、下宿等を利用した域外入学生の確保 ○新学校ＰＲビデオの活用 ○新パンフレットの活用 ○同窓会等支援体制の強化 ○（仮称）女子高応援団の設置
H30年度	○工事着手 ・本校舎 ・武道館 ・寮 ・民間収益施設	○総合選択制　一部実施 ○キャリア教育特別講座の試行 ○タブレットの一部導入 ○総合選択制カリキュラム検討 ○全館Wi-Fiの整備 ○超高速インターネット回線への接続	○(仮称)女子高応援団や同窓会やPTA等と連携した活動の企画・実施 ○地域と連携した活動の企画・実施(新商品の開発・販売等) ○小中学校と連携した活動の企画・実施
H31年度	○工事完了	○総合選択制　一部実施 ○キャリア教育特別講座の実施 ○タブレットの一部導入	○民間施設を活用した活動の検討 ○県内外への広報活動の強化
H32年度	○供用開始 ○既存施設の解体、造成着手	○総合選択制　完全実施 ○タブレットの導入	○入寮開始 ○民間施設を活用した活動の実施 ○県内外への広報活動の充実

資料編

参考
1

本市を取り巻く高校教育の状況

1　教育環境・社会状況の変化

少子高齢化や高度情報化、グローバル化に加え、厳しい経済情勢や格差の存在などを背景として、教育を取り巻く社会情勢は大きく変化してきています。学力の向上だけではなく、価値観が多様化する社会の中で、規範意識の育成や、人権・福祉・男女共同参画社会に関する理解を深め、社会参加の促進やコミュニケーション能力の育成などが求められています。

そういった中、平成28年４月に「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律」が施行したように、今後は「女性」の社会進出が強く求められる社会になっていくと考えられます。

これからの女性には、グローバル感覚を持ち合わせたリーダーとして、多様な価値観の中でしっかりと自己主張する能力、新しい価値観をもたらす可能性、どんな状況でも乗り越えていける切り拓く力、チャレンジ精神・起業家精神などが求められるようになります。

2　大隅地域の高校の状況

(1) 大隅学区の中学卒業（予定）者数の推計

平成26年と15年後の平成40年を比較すると、県全体では86.4%まで減少（2,194人減）すると予測されますが、大隅学区としては、平成26年と比較した場合、91.5%の188人減にとどまるという推計になっています。平成37年には平成26年を上回る見込みもあるなど15年の間には微増・微減を繰り返し、相対的には、緩やかに減少していくと考えられます。

鹿児島県年齢別推計人口調査結果（平成26年10月１日現在）を基に作成）

(2) 鹿屋市の中学卒業（予定）者数の推計

本市の中学卒業（予定）者数の推計としては、増減を繰り返すものの、平成40年まで1,000人を下回ることはないという状況です。

（鹿児島県年齢別推計人口調査結果（平成26年10月1日現在）を基に作成）

(3) 大隅地域の女子人口について

平成26年10月１日時点で大隅地域に居住している女子人口を３年齢ごとに算出したところ、【表１】に示した通り、微増微減はありますが、大隅地域の女子人口合計が3,000人を下回る年齢区分はありません。一方、国立社会保障・人口問題研究所が平成25年３月に出した推計を基に集計した【表２】のように、出生・死亡、転出入などの人口動態を勘案すれば、明らかに人口は減少していくと考えられます。

鹿屋女子高等学校は周辺市町村からの通学も可能であるという好立地にあることから、より魅力ある学校づくりを行うことで、大隅地域全体の若年女子の受皿となる必要があります。

【表１】大隅地域の３年齢ごとの女子人口

	(H27)	(H28)	(H29)	(H30)	(H31)	(H32)	(H33)	(H34)	(H35)	(H36)	(H37)	(H38)	(H39)	(H40)	(H41)
	14-16歳	13-15歳	12-14歳	11-13歳	10-12歳	9-11歳	8-10歳	7-9歳	6-8歳	5-7歳	4-6歳	3-5歳	2-4歳	1-3歳	0-2歳
鹿屋市	1,523	1,546	1,590	1,557	1,549	1,481	1,520	1,494	1,550	1,506	1,568	1,605	1,695	1,693	1,644
垂水市	174	158	151	151	166	154	144	140	143	148	152	156	161	159	146
曽於市	484	449	431	405	381	388	399	408	389	402	412	406	405	410	401
志布志市	409	418	419	412	416	426	409	419	429	439	436	444	452	461	447
大崎町	160	167	163	170	165	157	152	148	149	151	152	150	146	131	127
東串良町	95	99	87	78	81	85	82	83	89	92	90	88	82	74	64
錦江町	94	89	91	89	97	91	79	83	93	107	108	103	104	90	83
南大隅町	80	85	87	82	75	79	75	77	74	75	63	65	61	60	51
肝付町	206	189	191	182	196	179	158	156	163	182	154	160	143	154	143
大隅地域計	3,225	3,200	3,210	3,126	3,126	3,040	3,018	3,008	3,079	3,102	3,135	3,177	3,249	3,232	3,106

（参考：鹿児島県年齢別推計人口調査結果（平成26年10月１日現在））

【表２】大隅地域の15-17歳の女子人口の推計

	平成27年	平成32年	平成37年	平成42年	平成47年	平成51年
	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年
鹿屋市	1,399	1,415	1,427	1,310	1,172	1,108
垂水市	169	138	124	110	92	83
曽於市	449	341	337	288	241	221
志布志市	393	370	376	332	292	275
大崎町	143	130	119	95	83	76
東串良町	76	73	70	58	51	49
錦江町	77	70	73	53	43	38
南大隅町	72	65	57	48	38	34
肝付町	187	160	145	124	106	95
大隅地域計	2,965	2,761	2,728	2,418	2,117	1,979

（参考：国立社会保障・人口問題研究所『日本地域別将来推計人口』男女・年齢（5歳）階級別データ（平成25年３月推計）を基に集計）

参考 2

鹿屋女子高等学校の概況

(1) 学科・生徒数・教職員数（平成28年５月現在）

学科名	１学年の学級数（定員）	生徒数			教職員数
		１年	２年	３年	
普 通 科	1 (40)	40	40	25	管理職 3　教諭 43 事務系 8　非講 3 養護教諭 1　実助 1
情報ビジネス科	2 (80)	59	65	42	
生活科学科	2 (80)	67	80	75	
計	5 (200)	166	185	142	59
		493			

(2) 入学生徒数の充足率の推移

	定 員	22年度（充足率%）	23年度（充足率%）	24年度（充足率%）	25年度（充足率%）
普 通 科	80(2学級)	66(82.5)	73(91.3)	45(56.3)	35(43.8)
商 業 科	40(1学級)	25(62.5)	24(60.0)	25(62.5)	21(52.5)
情報処理科	40(1学級)	36(90.0)	34(85.0)	26(65.0)	35(87.5)
生活科学科	80(2学級)	80(100)	57(71.3)	74(92.5)	64(80.0)
合 計	240(6学級)	207(86.3)	188(78.3)	170(70.8)	155(64.6)

	定 員	26年度（充足率%）	27年度（充足率%）	28年度（充足率%）
普 通 科	40(1学級)	28(70.0)	41(102.5)	40(100.0)
情報ビジネス科	80(2学級)	43(53.7)	67(83.8)	59(73.7)
生活科学科	80(2学級)	77(96.2)	80(100.0)	67(83.8)
合 計	200(5学級)	148(74.0)	188(94.0)	166(83.0)

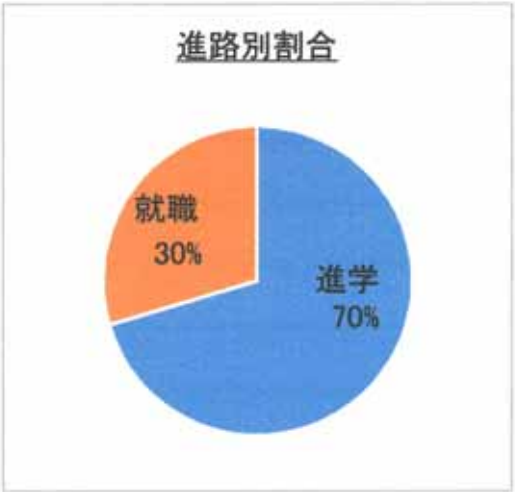
(3) 進路指導と実績（平成28年度（H28.3月）卒業生）

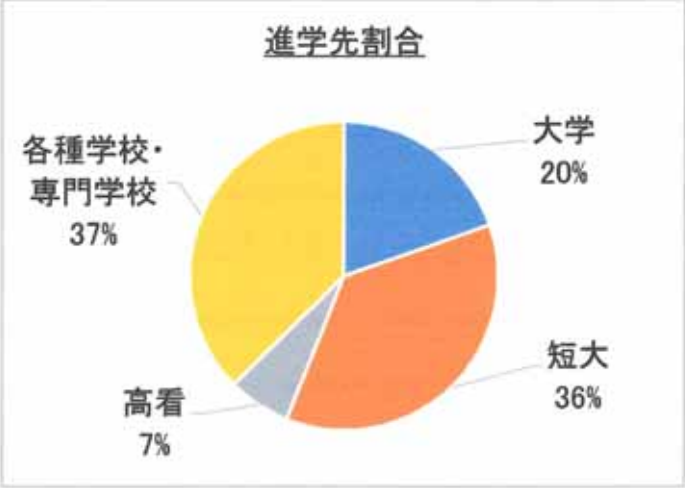
平成27年３月卒業生の進学・就職状況については、65.4%の生徒が 進学、34.5%の生徒が就職しています。中でも普通科の生徒の87.8%が進学しており、進学者の30.5%が四年制大学へ進学しています。また、商業科、情報処理科、生活科学科でも高等看護学校や各種学校・専門学校へ進学した生徒が多いと言えます。各種学校・専門学校の中では医療福祉系の専門学校への進学が多く、その他ホテル学科や美容系など多岐に渡ります。

就職した生徒の中では、64.3%が県内の民間企業への就職であり、就職先としては、それぞれの専門科での学習内容や取得資格を活かした就職先、職種となっています。これらのことから、鹿屋女子高等学校は、大隅地域における人材教育を担っていると言えます。

(4) 進路状況（平成27年度（平成28年３月卒業生））

			普通科	商業科	情報処理科	生活科学科	計
進学	大学	国公立	1	1	4		6
		私立	9		2	4	15
	短大	国公立	1		3		4
		私立	8	2	6	19	35
	高看	国公立	2			2	4
		私立		1		2	3
	各種学校・専門学校		10	4	9	17	40
	留学・その他						0
進学者計			31	8	24	44	107
就職	就職進学	県内					0
		県外				2	2
	民間企業	県内	1	8	5	12	26
		県外		4	5	5	14
	公務員		2				2
	自己・縁故・自営		1				1
就職計			4	12	10	19	45
未定者							0
合計			35	20	34	63	152





(5) 資格（検定）の取得状況（平成28年３月卒業者）

① 全国商業高等学校協会主催者検定１級　３種目以上合格　40人/54人
（内訳：９種目 ３人、８種目 10人、７種目 11人、６種目 ４人
５種目 ４人、４種目　４人、３種目 ４人）
※　１校からの全商９種目１級合格者の輩出数は４年連続日本一！
② 日本商工会議所主催簿記検定２級　18人
③ 全国高等学校家庭科技術検定１級３種目合格者（三冠王）　7人

(6) 部活動の主な成績

剣道部：全国高等学校総合体育大会剣道大会　鹿児島県代表として出場
弓道部：おどんな日本一弓道大会　ベスト16
卓球部：全国高等学校選抜卓球大会　出場
美術部：全国高等学校総合文化祭　美術・工芸部門　出場
書道部：国際高校生選抜書道展（書の甲子園）優秀賞
スーパービジネスクラブ：全国高等学校簿記コンクール　22位

参考 3

鹿屋女子高等学校活性化検討委員会における意見

（概要版・抜粋）

委員会の開催 平成28年《第①回》4月13日《第②回》6月10日《第③回》7月20日《第④回》9月5日

《委員12人》《アドバイザー１人》

学識経験者 ●武隈 晃 鹿児島大学・副学長 ●前田 博子 鹿屋体育大学教授 ●中村直也 鹿児島医療技術専門学校長
●小松 信明 県専修学校協会進路支援センター所長

地域代表 ●加藤 俊作 ●入佐 香織 ●岩松 菜津美 ●竹井 知子 ●久保 健太朗

学校関係者 ●森山 まゆみ 学校評議員 ●河原 多美子 同窓会・会長 ●楠元 務 学校長

ｱﾄﾞﾊﾞｲｻﾞｰ ●柳生 成彦 首都圏私立中高活性化プロデューサー

グローバルな人材の育成と英語教育の充実

基本方針への反映

《視野を広げる》

- ●人生観が変わるような経験を、世界に視野を②
- ●語学の基本を大切に。国際交流の実践で学ぶ②
- ●グローバル教育の工夫を。交換留学やディプロマ制度、イングリッシュキャンプなど②
- ●グローバル教育を全面に打ち出したほうが良い④
- ●「時代に適した能力を発揮できる人材」の育成が重要③

p6 [特色ある活動の実践]へ

p2 [基本理念]へ

《日本文化への理解》

- ●国際理解の面からも日本文化の理解を深めることが大切（茶道や華道など）②
- ●海外の人をおもてなしできる教養を（着物、お花等）①
- ●国際感覚は、鹿屋市を見つめ地域愛に気づく教育を ✉

《外部との交流連携》

- ●体育大学でのアジア圏学生の2週間プログラム等を活用するなどの連携が可能②
- ●カビックセンターを訪れる外国人との交流を計画的に充実させる②
- ●地域の象徴となる学校づくりという観点が必要③

p6 [特色ある活動の実践]へ

p8 [地域連携と貢献]へ

基礎学力と専門性、幅広い進路への対応

《基礎学力への対応》

- ●学習の基礎を身に付けさせる学校づくり②
- ●進路先がどこであっても、基礎的な学力を②
- ●どの学科にいても、基礎学力を学べる仕組みを②
- ●教科教育の充実等に関する取組を④
- ●進学に重きを置いた学習が可能になる何らかの対応は必要④

《専門性への対応》

- ●基礎や教養を学びながら、関心のある専門的な学習も選択できる仕組みづくり②
- ●他学科の授業も受けられる仕組みづくり②

《幅広い可能性と進路への対応》

- ●たくさんの進路と可能性が広がる学校づくり②
- ●進路を広げるには総合学科があるが、教員の増員など現実的な対応は難しい②
- ●学科にこだわらない様々な経験が進路に繋がる①✉
- ●希望する学科、資格取得と有利な就職が志望✉由
- ●専門性を高め将来を絞りこむより、幅広い選択肢を

p6 [特色ある活動の実践]へ

p10～12 [新たなカリキュラム構成]へ

●学識経験者の意見 ●地域経済界の意見 ●学校関係者の意見 ●アドバイザーの意見
①②③④：各回委員会での意見　✉：メールでの意見

コミュニケーション能力・女子力の向上

基本方針への反映

《心の基礎力》
- ●人間の内面をしっかり鍛える学校づくり②
- ●あいさつ・マナー・コミュニケーションなど人として基礎的な資質の育成を②
- ●どの学科にいても基本マナーが学べるように②
- ●母親としての力を育む教育を。卒業生の母親の講話など①

p5［多様な進路の実現］へ

機能的で魅力あふれる校舎・施設

《女子高としての魅力》
- ●女性に人気のパウダールームや清潔なトイレの整備②
- ●校内農園や収穫素材を活かしたカフェテリアの設置②
- ●思わず写真を撮りたくなる校舎や空間の演出②

《機能性と快適性》
- ●教員の意見を反映した学習環境と、生徒のキャンパスライフとのバランスを取ってほしい②
- ●人目を気にしなくても走れる周回ランニングコースを敷地内に作る。（どの体育系部活でも活用する）②
- ●部活の施設整備は、体育系だけでなく文科系にも配慮した整備をしてほしい②
- ●部活動の内容に見合った施設整備をしてほしい②④
- ●使い手（教員や生徒）の意見をしっかり取り入れた施設整備をしてほしい②

p13～14［施設整備］へ

《ICT教育環境の整備》
- ●ICT教育環境整備は計画立てて整備する必要がある③
- ●ICT機器の導入に伴い机の大きさ等も考慮する必要がある④

p6［特色ある活動の実践］
p13～14［施設整備］へ

地域連携、地域貢献と社会への対応

《地域への貢献・地域との連携》
- ●地域へ貢献する学校づくりが重要②
- ●社会に対応できる人材の育成②
- ●そろばん出前授業やキッズビジネスタウンなど単発ではなく継続して行っていく工夫が必要である①
- ●女子高のボランティアの評判が良い。もっと発信を①
- ●教育的視点ではなく、社会生活的視点で考えることが地域活性化へ繋がる ✉

p8［地域連携と貢献］へ

中学校等への啓発PR、情報発信の強化

《中学校へのPR》
- ●中学校の進路担当者や担任に対する学校説明を十分に理解してもらうことが大切②
- ●中高接続を目に見える形で示すべき③
- ●保護者が重要。保護者の口コミで女子高の良さを①
- ●既に満足度が高く活性化されており広報の工夫で足りる ✉
- ●情報発信の内容・タイミング等綿密に計画立てて実行を④

p9［親しまれる学校づくり］へ

参考 4

アンケート調査の結果・意見聞き取りの結果等

（概要版・抜粋）

アンケート調査等のまとめ（概要版・抜粋）

《アンケート調査の実施状況》
●市内中学３年生女子 468人 ●市内中学３年生女子の保護者 397人
●鹿屋女子高在校生 477人 ●鹿屋女子高在校生の保護者 241人

高校選びのポイント

これから受験の際、重視すること（中学３年女子と保護者）

● 中学３年女子 468人

① 行きたい学科 55% ★
② 自分の成績 51%
③ 学校生徒の雰囲気 40% ★
④ 卒業後の進路 25% ★
⑤ 部活動 19%
⑥ 共学か別か 14%
⑦ 制服 12%
⑧ 通学距離や手段 12%

● 中学３年女子の保護者 397人

① 行きたい学科 69% ★
② 子どもの成績 50%
③ 学校生徒の雰囲気 45% ★
④ 卒業後の進路 25%
⑤ 資格取得 24% ★
⑥ 通学距離や手段 17%
⑦ 説明会や体験入学 10%
⑧ 部活動 7%

鹿屋女子高を選んだ理由

受験校決定のとき、重視したこと（鹿屋女子高在校生と保護者）

● 鹿屋女子高校在校生 477人

① 学校生徒の雰囲気 39% ★
② 行きたい学科 38% ★
③ 資格の取得 32% ★
④ 部活動 25%
⑤ 自分の成績 23%
⑥ 卒業後の進路 22%
⑦ 説明会や体験入学 19%
⑧ 通学距離や手段 19%

● 鹿屋女子高校保護者 241人

① 行きたい学科 27%
② 部活動 25%
③ 資格取得 23%
④ 子どもの成績 22%
⑤ 説明会や体験入学 17%
⑥ 卒業後の進路 15%
⑦ 通学距離や手段 14%
⑧ 学校生徒の雰囲気 13%

高校で学びたいこと

これから高校受験に向けて、行きたい学科（中学３年女子と保護者）

● 中学３年女子 468人

① 普通科系 54% ★
② 家庭科系 20%
③ 看護・医療系 19% ★
④ 商業科系 18%
⑤ 被服・デザイン系 14%
⑥ 調理系 11%
⑦ 語学・国際系 9% ★
⑧ 大学進学に特化 8% ★

● 中学３年女子の保護者 397人

① 普通科系 49% ★
② 看護・医療系 30% ★
③ 商業科系 30%
④ 家庭科系 23%
⑤ 大学進学に特化 16%
⑥ 語学・国際系 14% ★
⑦ 福祉系 14% ★

高校で学びたかったこと

鹿屋女子高校受験を考えたとき、関心のあった学科（鹿屋女子高校在校生と保護者）

● 鹿屋女子高校在校生 477人

① 商業科系 34%
② 家庭科系 33%
③ 普通科系 30%
④ 調理系 22%
⑤ 看護・医療系 18% ★
⑥ 被服・デザイン系 17%
⑦ 語学・国際系 7%
⑧ 福祉系 6%

● 鹿屋女子高校保護者 241人

① 商業科系 33%
② 普通科系 31%
③ 看護・医療系 27% ★
④ 家庭科系 18%
⑤ 語学・国際系 12%
⑥ 大学進学に特化 11%
⑦ 調理系 11%

鹿屋女子高校卒業後の進学先 （概要版・抜粋）

● 卒業後進学者 1,488人 （卒業生過去10年間の進学者の累計）

大学へ 230人（15%）

① 経済商業 54人
② 介護福祉 32人
③ 文学語学 27人
④ 教育保育 27人
⑤ 心理 25人
⑥ 食物栄養 17人
⑦ 医療介護 14人

短大へ 563人（38%）

① 教育保育 309人 *
② 食物栄養 59人
③ 経済商業 49人
④ 文学語学 34人
⑤ 家政 30人
⑥ 教養 29人
⑦ 情報技術 16人

専門学校へ 695人（47%）

① 医療看護 279人 *
② 美容 93人
③ 医療事務 90人 *
④ ｻｰﾋﾞｽ系 77人
⑤ 芸術 41人
⑥ 食物栄養 27人
⑦ 介護福祉 23人

普通科から

① 医療看護 164人 *
② 教育保育 119人
③ 文学語学 46人
④ 美容 32人
⑤ 経済商業 28人
⑥ 食物栄養 28人
⑦ 介護福祉 27人

情報ビジネス科から

① 医療看護 77人
② 経済商業 77人 *
③ 医療事務 49人
④ 教育保育 48人
⑤ 美容 23人
⑥ サービス系 23人
⑦ 芸術系 22人

生活科学科から

① 教育保育 173人 *
② 食物栄養 55人
③ 医療看護 52人 *
④ 美容 38人
⑤ ｻｰﾋﾞｽ系 29人
⑥ 医療事務 24人
⑦ 介護福祉 23人

地元・地域の声 （概要版・抜粋）

北田大手町商店街、まちづくりかのや、商工会議所、ＰＴＡ連絡協議会
社会福祉協議会、地元就職企業①②、看護協会、同窓会、市職員

● 地域団体等 10団体

魅力あふれるグローバルな教育を

- 女性の特性を活かした学科
- 時代のニーズを捉えた学科
- 市内他高校との差別化、すみわけ
- 国際化、グローバル化への対応
- 看護、医療、福祉を学ぶ学科
- 地元地域課題への考察を

人間力と女子力を伸ばす活動を

- 日本文化を学ぶ機会を全員に
- コミュニケーション能力の向上を
- 社交、接客、マナーをしっかり身につける
- 福祉体験を通じた人間力の養成を
- 将来を見据えたキャリア教育の充実を
- イベントやインターンシップを通じて地域へ

キャンパスライフの充実を

- 遠方入学者の受入（寮）の検討を
- バス時刻の見直しやスクールバスの検討
- 心のケアカウンセラーの配置を
- 民間施設の併用して多目的な機能に
- 新たな魅力ある部活動の創設を

地域との積極的な連携と活用を

- 空き店舗を活用した実践・販売・PRを
- 地域イベントへの積極的な参画を
- 体育大やカピックなど連携や活用を
- ロータリークラブとの連携を
- 保育園、小学校等とのふれあい交流を

親しまれる学校づくりを

- 文化祭など市民に開放しては
- 市民向けの女子校フェスなど企画を
- 西原地区の人口増にも貢献する政策を
- 広報やホームページの工夫を
- 卒業生へのPR、情報発信の充実を
- 小中学生が自由に見学できる環境を

その他あれこれ

- 地元特産品の活用、農家との連携
- 学科のネーミングも大切
- マスコミや地元企業を上手に活用して
- 地元企業と連携し、採用枠の確保を
- オリジナルグッズ、アプリ、商品開発と販売
- 専門家を迎えた特別授業の実施など